

平瀬真砂氏文書概要

- 1: 文書群番号 074004
- 2: 文書群名 平瀬真砂氏文書
- 3: 出所 平瀬真砂家
- 4: 家業・役職等 大庄村長・大庄村会議員・兵庫県会議員
- 5: 地名 摂津国武庫郡西新田／兵庫県武庫郡西新田／武庫郡大庄村西新田／尼崎市西／尼崎市西・大庄西町ほか
- 6: 行政区分 幕府領／尼崎藩領／兵庫県第7区／西新田組戸長役場／大庄村／尼崎市
- 7: 歴史
西新田は市城南西部、武庫川東岸に位置する。西新田の史料上の初見は慶長10年(1605)。村高は慶長10年に569石余、元禄15年(1702)に1,231石余、天保5年(1834)に2,143石余とある。地先に開発された道意新田・又兵衛新田・中浜新田、平左衛門新田などの新田の石高が含まれている。
天和・貞享年間(1681～1688)には家数94軒・人数688人、天明8年(1788)には150軒・684人とある(いずれも新田分含む)。
水利は大島井組に属した。氏神は素盞鳴神社(牛頭天王社)。ほかに八幡宮があったが大正2～3年(1913～14)素盞鳴神社に合祀された。寺院は浄土真宗本願寺派源光寺・同宗同派円徳寺。中国街道が武庫川を渡る西新田の渡しでは舟渡しを担当した。
明治22年(1889)4月の町村制施行によって、当時西新田組戸長役場管轄区域(今北・東大島・西大島・浜田・東新田・西新田・道意新田・中浜新田・又兵衛新田)がそのまま大庄村となったため、西新田は大庄村に含まれた。当時の大庄村人口は3,370人。
大庄村域は、明治初年頃農業・漁業を主な生業とする地域であったが、明治38年(1905)に阪神電鉄の武庫川駅が開設、同43年(1910)に日本リーバ・ブラザーズ石鹼工場、大正6年(1917)に乾鉄線などの工場が建設された。昭和5年(1930)以降尼崎築港会社により村南部地先に大規模な臨海工業地の埋め立てがすすみ、鉄鋼・電力を中心とする重化学工業地帯となった。昭和17年(1942)の大庄村と尼崎市との合併のさいには大庄村人口は48,200人と激増していた。
同27年(1952)には東新田にかけての大庄湿地帯が開発されて尼崎競走場(競艇場)が建設された。
- 8: 伝来 昭和50年、平瀬真砂氏が史料館へ寄託。
- 9: 史料入手先 平瀬真砂氏
- 10: 点数 1,518点(目録件数869件)
- 11: 年代 享保13年(1728)～昭和27年(1952)
- 12: 構造と内容
本文書群は近世史料も含まれるが大半が近代史料である。近世史料には条目留等支配関係・宗旨関係・年貢関係史料がある。
近代史料には①大庄村会、大庄村農会、兵庫県会関係、②金融関係、③土地区画整理関係、④平瀬家の農地経営関係ほか家関係史料などがある。
①は大庄村財産明細表・事務報告書・歳入歳出予算及び決算報告書、大庄村農会予算書・決算書、兵庫県会議案及び速記録・決議書、兵庫県歳入歳出決算書などがまとまっている。
②は土地譲渡・売買証文、金銭借用証文、質入証文、金銭出納簿など、③は、武庫川土地建物株式会社関係史料などが含まれている。
④は小作証文などがまとまっている。他に婚儀・葬式等行事の算用帳面、小学校の卒業証書・通信簿、教科書などがある。

- 13: 関連史料 源光寺文書、小西幸雄氏文書、小西光信氏文書ほか
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 河野未央